

はりとは

はりは漢字で「鍼」と書きます。

古来の中国では、鋭利な石を用いて病気の治療、予防を行っていました。それが開発され、現在では金性や銀性、ステンレス性の細いものとなっています。

鍼がどのように効果があるかは、灸(きゅうと読む)と共に、東洋医学の学問で説明できます。

東洋医学とは、漢方医学とも言われ、中国を中心にした地域から発達した学問で、その考え方は2000年程前に書かれた中国最古の医書の中で既に示されています。

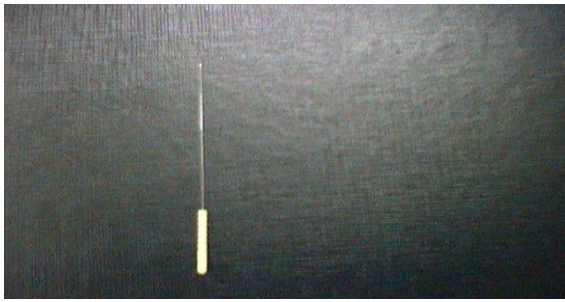
もう少し言えば、自然界と人が一体であるという考え方「天人合一説」や、万物は全て陰陽の2面性からできているという考え方「陰陽説」、更に身体には、多くのつぼがあるという考え方「経穴説」、気が身体をくまなく流れる「経絡説」等が東洋医学の基本となる考え方です。

東洋医学的に身体を分析し、そして体調を崩したとすればそのバランスを回復させるための治療を施すのです。つまり、人間が持つ生命力を高め、鍼や灸により治癒力を促進させるのです。

日本に鍼療法が伝わったのは、仏教伝来の頃とされています。以後、明治の初めまで広く行われてきましたが、明治以降政府が西洋医学を全面的に取り入れ、その結果、鍼灸療法や漢方は、医療制度の表舞台から後退を余儀なくされるのです。



左の写真は、
普通の糸(左)とステンレス性の鍼
(右)
少し糸の方が太いように感じられま
す。



左の写真は、ステンレス性の鍼です。
長さ1寸6分(およそ4.5CC)、
太さ2番号(およそ0.2MM)です

日本で広く用いられている鍼は、号鍼(ごうしんと読む)で銀またはステンレスの素材です。皮膚をアルコールで消毒し、鍼管(しんかん)を添えて鍼を刺していきます。鍼先を3mm程度入れたり、鍼の半分を15分程度入れ続けたりします。この他に患者の症状や体調によっていろいろな手法があります。

肩こりや腰痛、神経痛や関節リウマチを始め、多くの症状に対して治療を施しています。

鍼灸を行おうとするときは、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」にもとづいて、免許を取得しなければなりません。免許をえるには、国がみとめた学校あるいは養成施設で、3年間の課程を修了したあと、厚生労働大臣のおこなう試験に合格しなくてはなりません。

近年、鍼灸治療は注目されています。薬物を中心とした西洋医学的医療体制の隙間を補う「代替医療」の一つとして期待されているのです。